

鳥取の手仕事

伝統の技と新たな挑戦

鳥取の木製品の今と昔 [第7回]

面積の多くを森林が占める鳥取県では、木は古くから身近な存在で、様々な木製品が製作されてきました。今回は過去から引き継がれた伝統技術を用いて、伝統工芸士により製作されている木製品を紹介します。



鳥取民芸木工
九角面取スタンド(伸縮式)

鳥取の木製品

背後に中国山地をひかえた因幡伯耆の国は、杉、檜、松、栗、榿、柘などの材料に恵まれ、これらの豊かな材料を求めて昔から往来していた木地師や、旧鳥取藩の武士達の日用調度品を作る御用職人がその技術を伝えてきました。また、昭和初期の民芸運動以降、時代に合った木工品が盛んに作られるようになり、今も各地にその気風が息づいています。

受け継がれる木製品の数々

県認定の伝統工芸士の皆さんが製作される木製品を、認定分野ごとに紹介します。

額縁、筥物、茶道具

これらを制作しているのは、智頭町の福本憲政さん(福本工芸店)。県内外の古木、古材、神代木(出土材)などを使用し、平安時代の技法「時代仕上げ」で、木の特徴を生かした素朴な製品を作り続けています。



福本工芸店「額縁」

桐箱

町の大谷耕象さん(大谷桐工)が、掛け軸箱、茶碗箱、茶道具入れ、屏風入、花瓶箱、色紙箱などを作っています。

桐箱は、収納物を湿気から守り、軽く、狂いが少なく、燃えにくいなどの特性があります。八頭



桐下駄

かつて県内に多数あった履物屋も現在ではわずかとなりましたが、今なお、湯梨浜町の三津国勉さん(三津国履物店)、若桜町の盛田重美さんが、暖かみがあり、素材で軽く履きやすい手作りの桐下駄を製作しています。



三津国履物店「円形下駄」と「女下駄」

履き心地のよい 手作りの下駄



下駄の縦の長さを微調整する三津国さん

湯梨浜町で、昔ながらの軽くて、履き心地のよい桐下駄を作る三津国勉さんは、「三津国履物店」の三代目。

二十代の頃、二代目の末夫さんの作業の様子を見ながら、下駄作りを始めました。「最初は、県外に出て別の仕事に就こうかと迷いましたが、下駄作りをしてみました。三十代に入った頃、他の仕事に就いたとしても、結局、自分は下駄作りの仕事をするだろうという気持ちになりました」と職人として生きていくことを決意をした当時を懐かしそうに振り返ります。

大まかな寸法は、木製の下駄型で型どりをしますが、細かな縦横の寸法は「せん」という道具などを使って根気よくミリ単位で調節していきます。さらに竹や陶器で出来た道具を使って、表面を丁寧に磨きあげ、履き心地のよい下駄に仕上げます。

「大量生産はできませんが、個人の細かな要望にお答えできるのが手作りの下駄の良さですね」と三津国さん。

麒麟獅子

県東部・因幡地方に伝わる独自の伝統芸能「麒麟獅子」が後世に受け継がれるよう、鳥取市の中山勘治さん(中山工芸)は、獅子頭の復元制作、修理を行い、ミニチュアの置物、壁掛けも製作しています。



中山工芸 麒麟獅子頭(レプリカ)



中山工芸 麒麟獅子頭(修復)

欄間彫刻

美しい木目を利用して細やかな細工がほどこされる寺社建築や一般住宅の欄間彫刻を、鳥取市の橋詰哲夫さん(秋雪工房)と山田耕作さん(山田彫刻店)が受注製作しています。



秋雪工房「龍の衝立」(上段)、山田彫刻店「龍の彫刻額」(下段)

挽物、刳物、指物

鳥取の民芸家具は、吉田璋也氏の指導を受け、日本や英国の古い家具、中国風のデザインなどをたくみに取り入れ、日本人の生活様式にあう調度品が作られてきました。現在は、倉吉市の福田豊さん(鳥取民芸木工)によって、その技術意匠が受け継がれています。



鳥取民芸木工 座椅子

また、若桜町の若荷定治さん、米子市の森脇信夫さんは県指定無形文化財に認定されています。ほかにも、若桜町の山根康さん(山根木工所)、米子市の安宅保夫さん(安宅ロクロ店)、日野町の西村孝美さんが伝統を受け継いでいます。



西村孝美さん 盆、茶托、なつめ

番外編 いにしえの木製品

鳥取市青谷町にある青谷上寺地遺跡は、弥生人の暮らしが具体的に物語る様々なものが発見されています。この遺跡では、遺構や遺物が、水分が多く、厚い土の中で真空中に近い状態で埋もれていたため、通常は腐ってなくなってしまう木製品も極めて良好な状態で出土されました。



遺跡から出土した木製容器

平成19年に弥生人の木製品の加工技術や、日本人の木の文化のルーツをはじめとしたさまざまな謎を探ろうと、実際に青谷上寺地遺跡で出土した鑿や小刀などの工具の復元品を使って、「桶形容器」「高杯」及び「指物箱」の3点の木製容器を、人間国宝である3人の職人が復元しました。復元された木製容器は見た目も美しく、弥生時代にも高い技術をもった木工職人がいたことがうかがわれます。

2000年あまり前に、弥生人がこのような木製品を製作し、日常生活で使っていたことに、現代人の私たちも驚かされます。

詳しくは…

- とりネット
「ととりの手仕事」(手仕事全般)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/teshigoto>
- ととりの工芸品(伝統的工芸品)
<http://www.pref.tottori.lg.jp/dd.aspx?menuid=95598>
- パンフレット「鳥取の手仕事」
(鳥取県市場開拓室発行)をご覧ください。

問合せ先 県庁観光政策課
電話 0857-26-7237

飾り用の下駄(上段)、縦横を微調整する「せん」という道具(下段)